

つながる鎌倉エール事業（協働コース） 審査選考結果

事業名		審査項目								合計	結果	
		公益性 ※	課題の解決 ※	効果・成果	役割分担	相乗効果	先駆性 専門性 柔軟性等	適正な予算	実現性 ※			
1	暮らしのことはじめ2023		2.8	2.6	2.6	3.0	2.8	2.4	2.8	3.0	22.0	基準未達
	担当課:	高齢者いきいき課										
	団体:	地域の居場所「さっちゃんち」										
2	市民が主体となる緑の取り組みを推進するためのマップづくり		3.4	3.2	2.6	3.0	3.0	2.8	2.6	3.2	23.8	基準未達
	担当課:	みどり公園課										
	団体:	①特定非営利活動法人 市民活動センター運営会議 ②一般社団法人 地球の楽校										
3	産前産後女性の健康サポート事業		5.0	4.6	4.4	4.6	4.2	4.4	4.0	4.8	36.0	採択
	担当課:	市民健康課										
	団体:	mama care 湘南										
4	外国籍・海外ルーツ市民に対する行政相談窓口・相談機関一覧制作(やさしい日本語・英語)及び周知		3.8	3.4	3.2	3.0	3.4	3.6	3.0	3.6	27.0	採択
	担当課:	地域共生課										
	団体:	特定非営利活動法人 まるまーる										
5	「玉縄城五つの遺構の真実」研究と出版事業		3.2	3.0	2.8	2.6	2.8	3.0	2.4	3.4	23.2	基準未達
	担当課:	文化財課										
	団体:	玉縄城址まちづくり会議										
6	team HINATA ハビネス Festival		4.2	4.2	4.0	3.8	4.0	4.4	3.6	4.2	32.4	採択
	担当課:	障害福祉課										
	団体:	team HINATA										

※印の項目の平均点が3点以上で、かつ合計が24点以上の団体から上位3団体を採択。

鎌倉市市民活動推進委員会選考部会による講評

1 暮らしのことはじめ2023

- ・さっちゃんちが行っている「地域に開かれた居場所」としての活動には、社会的意義を感じる。
- ・オピニオンリーダー（OL）とは誰がどのような講座を受講すればいいのか、そのOLが孤立という課題をどのようにして解決していくのかが不明瞭であった。
- ・課題解決へのアプローチとしてOLが効果的な手法なのか、その必要性がわかりづらく、日常での当事者目線・利用者支援での視点で、支援する側とされる側がお互いに支援しあえる関係づくりを目指してほしい。
- ・共生社会の推進という観点から考えると、行政からのデータ提供の範囲として、高齢者いきいき課が所有しているデータだけでは偏りがあるのではないかと。防災やその他福祉関係など行政が所有している情報を共有できるような形にできると、よりよい取組になると考える。

2 市民が主体となる縁の取り組みを推進するためのマップづくり

- ・みどりに関する団体の活動を見える化し、かつ分かりやすく周知することは意義を感じる。
- ・また、団体の特性を活かした提案であり、鎌倉らしさの訴求にも繋がる。関係団体等との連携拡大にも期待したい取組である。
- ・マップの作成が目的のように感じられてしまったので、市民の参加を促すことを事業目的としているならば、活用できるツールとしてどうすれば良いのかを検討してほしい。
- ・マップの周知より、情報提供に力点を置くことが好ましい。そのため、WEBサイトでは情報の更新が課題となるが、サイトを作成した後の取組について、具体的な取組やビジョンが見えず不安が残った。
- ・市の役割がデータの提供と周知だけでは協働事業としての意義は薄く、この事業に対する市としての関わり方を再考してほしい。

3 産前産後女性の健康サポート事業

- ・悩みや課題を抱えている当事者（母親）と同じ年代、環境の方で構成されている団体と市がパートナーになることで、当事者目線に立った取組を期待できる。
- ・団体と市、双方が高い熱量をもった協働の姿がイメージできる。当事者目線で専門職が寄り添いつつ、公的支援に結び付けられる事業であるという点で、協働事業に相応しい。
- ・冊子に掲載する困りごと等の相談先は、提案団体だけではなく、困りごとに応じた様々な団体・支援情報を選択肢として掲載できるとよりよい。
- ・相談の入り口が身体的トラブルであっても、心身の複合的な悩みやトラブルを抱えている場合もあり、そこに対応する団体の「個人」としてキャパシティを超えて抱えすぎてしまう可能性もあるため、その部分を市がケアしてほしい。
- ・公益性が高い事業であり、継続した取組みとするために、今後は市としても、どのように継続していくのかを検討してほしい。

4 外国籍・海外ルーツ市民に対する行政相談窓口・相談機関一覧制作（やさしい日本語・英語）及び周知

- ・海外ルーツの市民・外国籍の方にとって、鎌倉での生活を安定させる第1歩となる取組であり、団体が寄り添いつつ当事者・生活者の目線で情報を提供する姿勢は公益性が高く、社会的意義がある。
- ・鎌倉市特有の課題の深掘りが欲しい。外国籍の市民は欧米の方には限らないため、英語とやさしい日本語だけでは当事者のニーズをかなえられない可能性があることから、より多言語での発信も検討してほしい。
- ・また様々な外国人コミュニティと当事者のコネクションをもたせることが根本的な課題の解決には必要であるため、その視点もふまえるとよりよい取組となる。
- ・団体としての活動を周知すればするほど、団体の個人としての対応の負担が増す可能性があるため、その点について市はフォローしてほしい。
- ・市として、外国人の生活ニーズにどう対応できるかというビジョン・計画が強く求められる。
- ・市がどのように外国語情報を提供できるかを考えると、団体は個別具体的な取組に着手でき、よりよい協働の取組となる。

5 「玉縄城五つの遺構の真実」研究と出版事業

- ・団体の研究自体は様々な表彰による実績や認知度の向上などで成果をあげており、かつ歴史的文献をまとめることには公益的にも社会的意義・価値がある。
- ・この研究成果の価値を求めている当事者の姿が見えず、協働事業としての意義が薄いと感じる。
- ・また、歴史文化的意義だけでなく、観光資源や地域愛の向上といった他の視点や魅せ方も検討してほしい。
- ・資金獲得の方法として、補助事業のみに頼らず、活動や展示・出版物等の一部有料化による資金捻出や、クラウドファンディングなども検討するなど、自主活動に軸足を置くことを検討してみたいかがか。
- ・予算のほとんどがイベント事業に費やされているため、周知だけでなく、これまでの文化財の保全や歴史を読み解くことにも注力してほしい。

6 team HINATA ハピネス Festival

- ・イベントの開催を通じて、これまでの障がい福祉にまつわる課題を第三者の目線で捉え直すことができる先駆性がある取組であり、サービスを提供する事業者に対し、アドバイスや意見を伝えるなど新しいことにチャレンジする姿勢が評価できる。
- ・活動に対する団体の高い熱意が伝わってきた。この協働事業を通じて福祉に関わる団体として、多くの市民に認知してもらえるような団体になってほしい。
- ・今後継続して活動していく上では、本制度以外でも補助金等の申請を行う機会があると思うので、的確に事業内容や目的を相手方に理解してもらえるような企画書の作成・記載方法を学んでほしい。
- ・公益性が高い取組であることから、市としては協働事業の枠のみではなく、政策の一つとして捉えていただくことも検討してほしい。
- ・障害福祉の事業者が、よりよい経営を考えられる場をつくるには、団体だけでは難しいことから、市としても協働の熱量を高め、団体とともに考えてほしい。